

荒浜中学校1、2年生39人が

唯一無二の防災・観光マップを制作

防災への思いを

地域で共有



1 取材先の決定・取材申し込み



始めに、生徒たちは荒浜地区の防災拠点や観光拠点について、班ごとに分かれ意見を出し合い、取材先を決定しました。また、取材の申し込みでは、生徒たち自らが電話で、取材の申し込みをしました。初めての経験に緊張しながらも電話を終えた生徒たちは、緊張から解放され「終わった」と話し笑顔を見せていました。

2 調査・取材



班ごとに、それぞれの取材先に向かった生徒たちは、「震災のときの被害を教えてください。」などとおすすめポイントを教えてください。」などとおすすめポイントを教えてください。また、構図を考えながら何度も写真を撮影しました。

3 情報集約・中間発表



取材した内容をもとに、みんなで話し合い、何度も修正を加えながら防災拠点や観光拠点についてのキャッチフレーズや紹介文を作成。その後、作成したものを班ごとに発表を行い、あらはマップに掲載する内容の共通理解をはかりました。

4 完成・披露



荒浜中学校で防災集会が開催され、生徒たちが、班ごとにマップへ掲載した各拠点の内容や活動をおした感想について、「日頃から災害に備える大切さなど再認識しました。」などと自分たちの言葉で堂々と発表しました。

5 御礼・贈呈



「ご協力ありがとうございました。」と感謝の言葉を述べた。また、このマップを参考にしてください。」とハキハキとした口調で各店舗などに御礼および完成の報告をした生徒たち。活動をおして地域のみなさんの温かさを感ずりました。」と話しました。



完成したあらはマップ。荒浜地区にある緊急一時避難場所や各店舗などが掲載されています。各店舗のキャッチフレーズや紹介文などは生徒が自筆したものです。



生徒会長 木村 心咲 さん

荒浜の魅力再発見

この活動をおして、郷土荒浜の魅力再発見することができました。また、地域のみなさんの優しさをより感じる事が出来ました。震災から10年の節目の年に復興した荒浜の魅力や情報などを発信できることを大変嬉しく思っています。

私たちが制作した「あらはマップ」を手にして、荒浜に訪れた観光客の皆さんが観光を楽しんでもらえたらとても嬉しいです。

また、今後は荒浜に観光で訪れた皆さんを案内したり、話かけられる存在になっていきたいです。



NPO法人海族DMC 代表 太見 洋介 氏

荒浜への愛着をより深めるきっかけに

震災から10年を迎えるにあたって、生徒たちの地元荒浜地区を世界へ発信したいとの強い思いに共感し、全面的に協力しました。

生徒たちが一から考え行った取材や発表などの経験をおして、震災当時の状況や、震災から復興への道のりを学び、改めて地元への愛着を深めるきっかけになってくれたら嬉しいです。

生徒たちには、これからも震災の恐ろしさと、そこから復興を遂げた荒浜地区の姿を未来に伝えてほしいと思います。